

実施報告書

「紙から光へ」

1. 確認事項等

施設番号	66-0863
施設名	南千住駅前保育所（おひさま保育園）
施設所在地	荒川区南千住4-3-2
法人名	公益財団法人鉄道弘済会
活動期間	令和 6 年 6 月 から 令和 7 年 3 月
活動内容の公表	☒ 活動報告書を作成し、園のホームページ等で公表した。
	公表したホームページ等のURL https://www.kousaikai.or.jp/sukoyaka/minamisenju/blog/?p=10094

2. 活動報告（注1）

番号	1
テーマ	身近な素材「紙」から光への興味
実施回数・期間 （注2）	合計11回（内訳：4月1回、5月3回、6月1回、7月4回、8月0回、9月2回）/令和6年4月から令和6年9月まで
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス
	1歳児クラス
	2歳児クラス
	3歳児クラス
	4歳児クラス
	5歳児クラス
	人
	人
	人
	9人
	9人
	9人
	人
	人
活動内容 （注3）	日常、生活している中でよく手にする素材に興味を持ち「何からできているのだろう？」など疑問が持てるよう環境設定をし、そこからみんなで探求していく活動を計画した。当園は0歳から5歳まで全学年9名ずつの編成となっているので5歳児9名を中心とした活動とした。
活動における チェックリスト	☒ グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。
	※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか 5歳児9名の活動であるのでグループに分けず行う。「あおさん会議」（子ども会議）を通して自分の考えや友達の考えを保育者も交えてみんなで共有しながら活動を行うところから始め、園や同法人関係の大人を巻き込んだ関わりへと展開した。
	☒ 活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。
	※記録をどのように行ったか 活動の様子をタブレットを用いて写真や映像にて記録した。ドキュメンテーション型日誌にて子どもの言葉や表情を記録した。
	☒ 乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。
	※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか 3歳児から5歳児までの異年齢児クラスであるため、基本環境は3歳児も使用できる道具等は自由に持ち出せる環境である。5歳児の「やってみたい」気持ちから必要とする活動を担任は捉えその都度素材や道具、場所を用意し、更にその活動に関わる担任以外の大人へも協力を求めた。5歳児のみの活動となった場合は他の場所に環境を設定し5歳児本来の取り組みが出来る様配慮した。保育者は子どものやりたい気持ちが新鮮なうちに取り組めるよう活動準備を行い、次への展開は子どもの意見を優先しながら行事への活動と連鎖させていった。
	☒ 記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。
	※振り返りの実施方法 基本、日誌を基に振り返りを行い、日誌を見た他の職員や活動に参加した担任以外の職員と意見交換しながら次の計画を行った。時間と根気のいる活動や盛り上がっている活動は子ども達一人ひとりのモチベーションを把握しながら、一斉の活動とせず一人ひとりがいつでも取り組めるように保育室の片隅に場所を用意するなど配慮した。
	☒ 幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。
	※教諭や保護者等への共有方法 保護者に対しては、ホームページや「ぼかぼか日記」（クラスだより）を利用して探究活動の様子を周知した。また、保護者も参加できるように「どうしたらいいかな？」など疑問に感じた時は家庭で相談する方法を提案し、興味を持ってくれた保護者がアイディアを提供してくれた。
	☒ 次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。
	※継続的な実施のための工夫 活動中の子ども達のつづきやき拾い次にやってみたい事を子ども達みんなで共有し、その都度工夫しながら進めた。活動の取り組みから、同じクラスの3、4歳児も光へ興味を示したが、十分な素材や道具、場所が揃わず次年度への活動へ繋げていく予定である。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0863
施設名	南千住駅前保育所（おひさま保育園）
施設所在地	荒川区南千住4-3-2
法人名	公益財団法人鉄道弘済会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

身近な素材「紙」から光への興味

<テーマの設定理由>

- ・身近な環境を通して「なんでだろう?」「なんでできているのかな?」「つくってみたい」など子どものつぶやきをひろい、子ども会議を通してみんなと共有し考える機会をもうけている。その中から生まれたテーマである。
- ・子どもの探究心を活動に活かし、仲間で行き組む活動を通して協働性を養い達成感へと繋げていく。

2. 活動スケジュール

令和6年度

1. あおさん会議（こども会議）を通して、子ども達がやりたい活動内容を決める。
①4/24「お楽しみ会でやりたいこと」②5/7「紙のできてるもの探し」
③5/28「お楽しみ会スケジュールについて」④5/31「お楽しみ会当日の確認」
2. 6/7お楽しみ会当日
AM①紙の博物館見学・紙漉き体験②公園で遊びお弁当
PM③園内でおやつ作り④お楽しみ会を振り返ってポスター作り⑤保護者に発表
3. 子ども達から夏祭りに提灯をつくりたい!という意見が出る
近隣の提灯工房へ見学の依頼をするが、文字書き専門とのことで実施できず。
4. 同法人義肢装具サポートセンターの装具士さんに、3Dプリンターを使って提灯の型作りをお願いする。
5. 7月～紙漉き体験再現（保育室の隅にコーナーを作り自主的に行う）
①牛乳パックちぎり7/3②紙漉き実施7/17・18・7/23
6. 7/25提灯作り（和紙を全面に貼る）
7. 7/26夏祭り 完成目指したが未完成の提灯を、お化け屋敷に飾る。
8. 9/3紙漉きで作った和紙で、提灯の飾りを作る。完成!
9. 9/5提灯完成を知らせに同法人義肢装具サポートセンターへ、協力のお礼をする。
子ども達の希望で、急遽3Dプリンターのある研究室の見学をする。
10. 完成した提灯を全園児や保護者が見れる玄関に飾る。9/18ホームページに掲載した。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・5歳児のみの活動である「お楽しみ会」の計画設定 ・「あおさん会議」の設定
- ・保育室の環境設定（いつでも取り組めるコーナー）
- ・購入品・・・紙漉き用木枠キット、懐中電灯（LEDランタン）、カラスプレー、テグス、お楽しみ会費用（職員下見代、交通費、博物館入館料、紙すき体験代金）

4. 探究活動の実践

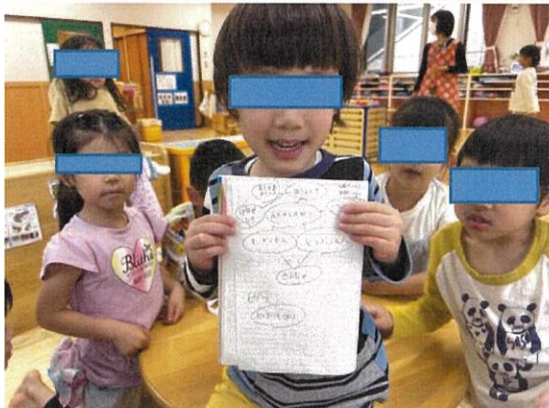
活動内容は、別紙参照（保育日誌より）

5. 振り返り

活動内容の、最終ページに記載

○5 歳児のあおさん会議(子ども会議)

2024 年 4 月 24 日 「お楽しみ会でやりたいこと」



5 歳になって初めての行事「お楽しみ会」でやりたいことをみんな
で話し合った。午前中の戸外活動で行きたい場所は、水族館、動
物園、公園、遊園地と候補があがった。お楽しみ会だけでなく、
色々な機会に行けるようにみんなの「やってみたい」気持ちに応
えていきたい。

お楽しみ会のお話を子どもたちと進めることが出来たが場所のイメ
ージがつかない子がいたので、次回話し合うまでに場所をまとめた
資料を用意して子どもたちとどんな目的を持って進めていくか考え
ていく。

2024 年 5 月 7 日 「紙で出来ている物探し」

あおさん会議の時間に、身近にある紙をみんなで探
した。折り紙や塗り絵を見つけた。段ボールを見て「これ
も紙？」と友だちと話しながら考えていた。いつも遊びに
使っているトランプやパズルにも目を向け、紙でできて
いるのかな？と疑問を持っていた。他にもペーパータオ
ルやティッシュ、制作で使うお花紙も紙であることに気が
ついた。形は違うけれどみんな紙で出来ていると知り、
どのように紙ができるのか保育者の問いかけで改めて
知りたいと思う気持ちが湧いてきた様子がみられた。
「わからない！」と思っていることをお楽しみ会で紙博物
館に行き「謎解明をしたい！」と意欲的になっていた。



2024 年 5 月 28 日 「お楽しみ会スケジュールについて」

あおさん会議では、6 月の行事、お楽しみ会について、
言葉遣いについて話しをした。お楽しみ会のお話をしていく
中で、しおりがあると話が理解しやすいと感じた。金曜日に
子ども達に配布できるように作っていく。言葉遣いにつ
いては、絵本をもとに話し合った。友だち同士でも優しい
言葉を使えるよう話し、言葉の大切さを考えた。



お楽しみ会のしおりを見ながらスケ
ジュールを確認した。持ち物なども
確認した。自分のしおりがあること
でイメージすることができていた。

○お楽しみ会当日 6/7 (午前中、電車、紙博物館、公園)



★登園後、荷物チェックを保育者と一緒にし、レジャーシートを友だちと見せ合いしおりを確認して出発時間を意識していた。

★切符を改札に通す体験をした。始めは切符が出てくるのに出る時には切符が出てこない不思議さを感じている子もいた。

★常磐線は満員だったが、京浜東北線は、空いていたのでみんなで座ることが出来た。窓の景色を見る、友だちと話すなど思い思いに過ごしていた。

★紙博物館に到着し最初に紙すき体験を行った。博物館の方から紙は何からできているか、紙すき体験のやり方の説明を受けた。

★紙すき体験開始。生地をすくう作業は、均一に流す木枠の動かし方が難しかった。最後に水分を蒸発する為にアイロンを当てて自分だけのカードの完成！

★館内見学。紙を作る昔の機会を見て使い方を考え気が付いたことをみんなに伝えていた。

★公園では、お城の滑り台に夢中！滑りやすい壁を登る攻略方法を考え伝え合っていた。

★午後はクッキング、ポスター作りをした。クッキングは、生地作りを4人グループで行った。焼きあがると「甘いにおいがする」「ぷつぷつしている」など変化に気づいていた。

○保護者の前で、ポスター発表



○保育園で紙すき体験を再現 7月～



木枠が届いたので、紙すきを再度やってみることにした。博物館で学んだ動きを思い出し楽しむ姿が見られた。ミキサーが出てきたことで根気のいる準備や作業に飽きていた子も再びやる気が出てきた。特にミキサーで紙が細かくなることが面白かったようでじっと見つめ紙が溶けた水の感触を楽しんでいた。ミキサーで紙を細かくする時に、パッキンがなくなり蓋が飛び中身の水が溢れたが、誰ひとり保育者を責めたりせず、みんなが率先して床を拭いてくれた。失敗をみんなの力で助け合い乗り越えようとする姿が見られた。問題を解決しようと取り組む力が養われ始めていると感じた。また、紙すきの穴が開いてしまったり、上手くすくえなかったりしたが、子どもたち同士で声を掛け合い、協力していた。相手の思いを受け止めた言葉の使い方や人との関わり方が身についてきていると感じられた。

○「夏祭りの提灯をつくりたい！」

6月下旬から園内に夏祭りの雰囲気作りをしたところ、「この提灯は何で出来ているの？」という関心を持った子がいた、紙で出来ていることを知らせると「紙すきで作った和紙で提灯を作れるかな～」とある子がつぶやいた。そこから「つくってみたい！」「でもつくれるかな～」等の言葉が聞かれた。子ども達は、自分たちではできないと予測したのか、その後あまり意欲的な声は聞かれなかった。そこで子ども達の希望を叶えたいと思った職員は、地域の方や職人に協力を求めることにした。調べてみると子どもが歩いて行ける範囲に提灯工房はあったが文字書きが専門だった。同法人の義肢装具サポートセンターの装具士さんに 3D プリンターを使用して提灯の型枠を作ってもらえるかお願いした。義肢装具サポートセンターの装具士さんが、提灯の型枠を作ってくれることを子ども達に話すと、喜びと期待感をもって来ていた。（※義肢装具サポートセンターは、園庭がない当園の子ども達の為に屋上を開放してくれている同法人施設）

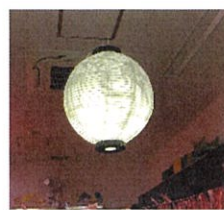


○提灯作り 7/25



みんなで作った和紙の量では、全面貼るには足りないもので、まずは以前購入してあった和紙を貼ることにし、皆の和紙は飾りに使うことに話がまとまった。提灯に障子紙を貼り始めたが、のりを指で貼ることすら「ベタベタして気持ち悪い」と話しその都度手を洗いにいく子もいた。活動を進めるうちに感触になれる姿も見られ作業も順調に進んだ。

○夏祭り当日 7/26



夏まつりお化け屋敷の準備では、自分たちで脅かし方を考えていた。優しく脅かすことを伝えと声の大きさや脅かし方を変えようと話し合っていた。受付は、ルール説明をしたりチケットを配ったりする仕事を考え、チケットを大人に配って良いか質問があるなど自分達でお祭りが始まる前にルールをしっかりと確認し合っていた。みんなで作り始めた提灯は未完成だが、真っ暗なお化け屋敷に飾ることになった。ぼんやりとした光に「きれい！」「すごいね～」と感じながらも、当日はお化けに意識が向いていた。

○提灯の完成 9/3



自分たちで作った和紙に絵を描いてハサミで切る作業をした。色鉛筆で下書きをしたことで切りやすかったと話していた子もいたが、手作り和紙は厚めに仕上がりがハサミで上手く切ることができず苦戦する姿も見られた。好きなように描いたことでオリジナリティのある提灯が出来みんな満足げの表情をしていた。

いよいよ点灯！懐中電灯を我先に手にしたい気持ちが強く取り合いが起きた。仲間の姿を見て、「じゃんけんで決めよう」と声があり順番を決めることにした。光を当てながら「色が出るところと出ない場所がある」と気がついたようだった。和紙作りから完成まで時間がかかったことで、光に照らされて提灯を眺めながら「ようやくできた！！」と言う達成感に満ちていた。今度は飾りが乾いてから枠組みを作ってくれた装具士さんに見せに行こう！と意見がでたので都合を聞いて届けに行くこととした。



○協力していただいた装具士さんへお礼をする 9/5



完成した提灯を義肢装具サポートセンターの装具士さんに見せに行った。思い思いに描いた手作り和紙の飾りについて自ら説明をしていた。型枠を作った3D プリンターに興味を感じていた子が「3D プリンターがみたい！ みせてください。」と自らお願いしていた。予定していなかったがその希望に応えてもらい研究室を見せてもらう事が出来た。実際の装置は、提灯より小さい事に気が付き「提灯より小さいのになんでできるんだ？」と不思議そうにしていた。

「5.振り返り」

子ども会議から始まった紙すき体験、提灯づくり、光の不思議さ等様々な体験を通して探究活動を行うことができた。その活動を通して、言葉の伝え合いによりお互いの思いに気がつきその思いを受け止めながら折り合いをつけ、活動を先に進めようとする子ども達の底力を感じる事が多かった。また、完成による達成感を味わい取り組むことの喜びを感じられるようになってきている。

保護者の前で発表する場を作る事で共有することができ家庭でも語り合える機会になったと思う。協力してくれた様々な大人たちとの関わりの中から道徳性も育ちつつあった。保育の計画を考えると、子どものつぶやきや言葉から活動を考えていくには計画にない活動になることも多かったが、それが大人も子どもも同じ気持ちで真剣に取り組む姿勢に繋がることを証明する活動となった。